

花窟神社

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

花窟神社（花の窟神社、はなのいわやじんじゃ）は三重県熊野市有馬町に所在する神社。伊弉冉尊（伊弉冊尊^[1]、いざなみのみこと）と軻遇突智尊（かぐつちのみこと）を祀る^[1]。

目次

概要

例大祭

指定文化財

国指定文化財

県指定文化財

市指定文化財

短歌

交通

周辺情報

脚注

関連項目

外部リンク

花窟神社



鳥居

所在地

三重県熊野市有馬町上地130番地

位置

北緯33度52分47.5秒
東経136度5分36秒

主祭神

伊弉冉尊、軻遇突智尊

神体

磐座

創建

不詳

例祭

2月2日（春季）
10月2日（秋季）

主な神事

御縄掛け神事

概要



七里御浜から見た神体の巨岩

『日本書紀』（神代卷上）一書には、伊弉冉尊は軻遇突智（火の神）の出産時に陰部を焼かれて死に、「紀伊国の熊野の有馬村」に埋葬され、以来近隣の住人たちは、季節の花を供えて伊弉冉尊を祭ったと記されている。当社では、それが当地であると伝え、社名も「花を供えて祀った岩屋」ということによるものである^[2]。

神体である巨岩の麓にある「ほと穴」と呼ばれる^[3]高さ6メートル、幅2.5メートル、深さ50センチメートルほどの^[4]大きな窪みがある岩陰が伊弉冉尊の葬地であるとされ^[3]、白石を敷き詰めて玉垣で囲んだ拝所が設けられている^[4]。一説には、伊弉冉尊を葬った地はおよそ西1.3キロメートル先にある産田神社（うぶ

たじんじゃ）であり、当社はこの火の神である軻遇突智の御陵であるともいう。花窟神社では、伊弉冉尊の拝所の対面にある高さ18メートルの巨岩が、軻遇突智の墓所とされている^[5]。

古事記や延喜式神名帳に「花窟神社」の名はなく、神社というよりも墓所として認識されていたものとみられる。実際、神社の位格を与えられたのは明治時代のことである。

今日に至るまで社殿はなく、熊野灘に面した高さ約45メートルの巨岩である磐座（いわくら）が神体である^[2]。この巨岩は「陰石」であり、和歌山県新宮市の神倉神社の神体であるゴトビキ岩は「陽石」であるとして、一対をなすともいわれ^{[3][4]}、ともに熊野における自然信仰（巨岩信仰・磐座信仰）の姿を今日に伝えている。

2004年、ユネスコ世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部（熊野参詣道伊勢路の一部）として登録された。

例大祭

- 御縄掛け神事 - 2月2日（春季大祭）、10月2日（秋季大祭）。県指定無形民俗文化財^[4]。

特別な田で作られたもち米の藁縄7本を束ねた長さおよそ170メートルの大綱に^[3]、季節の花（2月はツバキを入れ、10月はケイトウを入れる^[3]）を結びつけた3つの縄幡および扇を吊して、磐座の頂上（ウバメガシに結ばれる^[3]）から七里御浜の海岸へと大綱が引かれ、境内の南隅にある柱（かつてはマツの神木）の先端へと引き渡される。その大綱の先端は地面の支柱に結びつけられる。大綱として束ねられる7本の細い藁縄は、伊弉冉尊の子で自然神である級長戸辺命（しなとべのみこと、風の神）、少童命（わたつみのみこと、海の神）、句句迺馳（くくのち、木の神）、草野姫（かやのひめ、草の神）、軻遇突智尊（火の神）、埴安神



神体の巨岩から渡された綱

（はにやすのかみ、土の神）、罔象女（みつなのめ、水の神）を意味する^[6]。また3つの縄幡は、三流の幡（みながれのはた）と呼ばれ^[6]、岩側より、伊弉冉尊の黄泉の穢れをはらった際に生まれた三神、天照大神（あまてらすおおみかみ、太陽神）、月読尊（つくよみのみこと、月神）、素戔鳴尊（すさのおのみこと、暗黒神）を表している^[3]。この3つの縄幡は、朝廷より毎年奉獻されていた「錦の幡」が運ばれるとき、舟が熊野川の増水により転覆したため、変わり「縄の幡」が作られたものであるといわれる^{[3][4]}。綱は掛け替えることなく自然に切れるまで残されるため、新たな綱と2本見られることもあり、縁起がよいものとされる^[3]。

- お白洲引き - 10月2日（秋季大祭）^[6]。

指定文化財

国指定文化財

記念物（史跡）

- 熊野参詣道 花の窟 - 2002年（平成14年）12月19日指定^[7]。

県指定文化財

民俗文化財（無形民俗文化財）

- 花の窟のお綱かけ神事 - 1969年（昭和44年）3月28日指定^[7]。

市指定文化財

民俗文化財（有形民俗文化財）

- 花の窟神社の版木 - 1999年（平成11年）1月28日指定^[7]。

版木原画、菱川廣隆。版木の花の窟図には、お綱掛け神事による綱が御神体に掛けられた景観が示されている^[8]。

（版画の文）^[8]

日本書紀曰
伊弉冉尊生火神時被
灼而神退去矣故葬於
紀伊國熊野之有馬村
焉土俗祭此神之魂者
花時亦以花祭又用鼓
吹幡旗歌舞而祭矣

（日本書紀に曰く 伊弉冉尊が火の神を生む時 灼かれて神退去りましぬ
故 紀伊國熊野の有馬村に葬る 土俗（くにびと）此の神の魂を祭る者は
花の時に花を以て祭り 又 鼓（つづみ）吹（ふえ）幡旗（はた）を用い
て歌い舞いて祭る）

花の岩屋の御祭はしも二月 十月の
二日の日 縄をもて旗をつくり千尋
のみしめな ゆひそえ いかめしき巖
の上より濱松のこずゑに引延ばし神
主をはじめ縣の奴祢男女等種々
の花横山の如く備え奉れるなむ 神代
よりの風俗にはありける 是れより
十丁ばかり西の方に産田の社とて
二神の鎮り座す社あり すべては此
地のさま 万の書にみえたればもらしける

よみ人志らず

春風に梢さきゆく紀の国や有馬の村に神祭せよ

西行上人

みくまのの御浜によする白浪は花の巖屋のこれぞ白木綿

(裏面) [\[8\]](#)

天保十五年甲辰三月成
筆者 若山 自寛齊
画工 平安 菱川廣隆
彫刻 若山 加市堂

各画料 金百匹
彫刻料 銀壺枚
樛屋蔵版

- **花の窟の湯立釜** - 1999年（平成11年）1月28日指定[\[7\]](#)。

記念物（天然記念物）

- **花の窟神社社叢** - 1964年（昭和39年）4月28日指定[\[7\]](#)。

短歌

- 「紀の国や花の窟にひく縄の ながき世絶えぬ里の神わざ」 [本居宣長](#)[\[2\]](#)
- 「紀の国や有馬の村にます神に 手向る花は散らじとぞ思ふ」 [徳大寺公能](#)[\[2\]](#)（大炊御門右大臣[\[4\]](#)）
- 「三熊野の御浜によする夕浪は 花のいはやのこれ白木綿（しらゆう）」 [西行](#)[\[2\]](#)
- 「神まつる花の時にやなりぬらん 有馬の村にかかるしらゆふ」 [光俊朝臣](#)[\[2\]](#)[\[4\]](#)
- 「春風に木すゑさきゆく紀の国や ありまのむらにかみまつりせよ」 よみ人しらず[\[2\]](#)

交通

- [東海旅客鉄道](#)（JR東海）[紀勢本線](#) [熊野市駅](#)から[三重交通バス](#)で約5分、「花の窟」下車。
- 駐車場あり。

周辺情報

- [獅子岩](#)
- [七里御浜](#)
- [熊野市歴史民俗資料館](#)
- [花窟パーク](#)
- [花窟パーク公衆トイレ](#)[\[9\]](#)
- [道の駅熊野・花の窟](#)

脚注

1. ^ ***a b*** “御祭神 (<http://www.hananoiwaya.jp/gosaishin.html>)”. 花窟神社. 2013年1月14日閲覧。
2. ^ ***a b c d e f g*** “由緒書 (<http://www.hananoiwaya.jp/history.html>)”. 花窟神社. 2013年1月14日閲覧。
3. ^ ***a b c d e f g h i*** “熊野・大和 幻視行 - ④花の窟 潮香る神話の主たち”. 朝日新聞. (2008年4月22日)
4. ^ ***a b c d e f g*** 『日本の神々 - 神社と聖地 6 伊勢・志摩・伊賀・紀伊』 谷川健一編、白水社、2000年、467-469頁。ISBN 4-560-02506-1。
5. ^ “聖地日和 - 異境・異形3 三重県熊野市・花窟神社”. 毎日新聞 日曜くらぶ. (2009年8月2日)
6. ^ ***a b c*** “毎年10月2日 - 花の窟神社 秋季大祭 (<http://kumano-kankou.com/?p=351>)”. 熊野市観光公社. 2013年1月14日閲覧。
7. ^ ***a b c d e*** “文化財 (<http://www.city.kumano.mie.jp/kankou/bunkazai.html>)”. 熊野市. 2013年1月13日閲覧。
8. ^ ***a b c*** “宝物 (<http://www.hananoiwaya.jp/treasure.html>)”. 花窟神社. 2013年1月14日閲覧。
9. ^ “花窟パーク公衆トイレ (<http://www.miebarifuri.com/higashi/4-toilet/006-hananoiwaya/hananoiwaya.html>)”. 三重県バリアフリー観光情報. 伊勢志摩バリアフリースターセンター (2014年6月11日). 2015年10月31日閲覧。

関連項目

- 日本書紀
- 熊野古道 - 伊勢路 (熊野古道)
- 日本の世界遺産 - 紀伊山地の霊場と参詣道
- 産田神社
- 比婆山 - 広島県庄原市および島根県仁多郡奥出雲町、および安来市伯太町にまたがる山。花の窟とならんでイザナミノミコト陵墓と比定されている。広島県側の麓には遥拝所として熊野神社 (旧「比婆大社」)、島根県側には比婆山久米神社がある。
- 近畿地方の史跡一覧

外部リンク

- 花窟神社 (<http://www.hananoiwaya.jp/>) - 公式サイト
- 熊野市観光公社 (<http://kumano-kankou.com/>)
- 国指定文化財等データベース (http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.asp) - 花の窟

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=花窟神社&oldid=84114797>」から取得

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。